



2010/10/15

TWS shibuya

サイレント・ボイス

アートの課題 | 多文化社会と新しいアートセンターの活動

SILENT VOICE

On the Agenda of the Arts | Cultural diversity and the activities of New Art Centers

2010/10/2 土 - 12/12 日 トーキョーワンダーサイト渋谷

参加アーティスト

アラヤー・ラートチャムルンスック | Araya Rasdjarmrearnsook

ギョンウォン・ムン | Kyungwon Moon

マルワ・アルサニオス | Marwa Arsanios

ネスリン・ホドル | Nesrine Khodr



アラヤー・ラートチャムルンスック | Araya Rasdjarmrearnsook
《Manet's Dejeuner sur l'herbe 1862-1863 and the Thai villagers》, 2008
Video Installation, 16 mins
Courtesy of 100 Tonson Gallery and the artist

ashkal alwan the lebanese association for plastic arts





企画概要

今年で4年目となる「アートの課題」は、「文化多様性」をテーマに、異なった文化的背景を持ちながらも現代世界が共通に抱える課題について世界各地のアートセンターと連携しながら、対話と制作、展覧会を通して取り組んできました。

今年の企画“Silent Voice”(サイレント・ボイス)は、日常には見えにくい歴史的、政治的な問題に鋭く切り込みながらも、それを声高に、あるいはプロパガンダのように語るのではなく、一見穏やかにもみえるしっかりとした個人の語り口で語るアジアの女性アーティストにフォーカスし、アジアが作り上げてきた世界へのかかわり方と、その作品と作品制作に対する「attitude(態度)」の問題に言及することを目的としています。この「attitude(態度)」こそが、アジアにおける世界へのかかわり方、アートの在り方の鍵を握っており、アジアから世界に向けて発信すべき大きな価値観であると考えられるからです。

開催概要

- 会期 2010年10月2日(土)～2010年12月12日(日)
- 会場 トーキョーワンダーサイト渋谷
- 開館時間 11:00～19:00(最終入場は30分前まで)
- 休館日 月曜日(祝日の場合は翌火曜日)
- 入場料 無料
- イベント(トーク・シリーズ) 展覧会期中、参加アーティストをはじめ、美術、パフォーマンス、建築、社会学など様々な分野の専門家とともに今日の社会的な問題やアートの役割について考えます。
 - 1、2010年10月27日(水) 19:00～22:00 ゲストトーク
[講師] 羽藤英二(東京大学工学系研究科都市工学専攻准教授)
 - 2、2010年10月28日(木) 19:30～21:30 アーティストトーク
[出演(予定)] ギョンウォン・ムン、マルワ・アルサニオス、[ゲスト] デイン・Q・リー(ヴィジュアルアーティスト、サン・アート代表、ベトナム)
*出演を予定していたアラヤー・ラートチャムルンズックは都合により欠席となります。
 - 3、2010年11月10日(水) 19:00～22:00 ゲストトーク
[講師] ダニー・ユン(香港現代文化研究所代表、アート集団ズニ・アイコサヒドロ創設者、香港)
 - 4、2010年11月13日(土) 15:00～18:00 ゲストトーク
[講師] 北山恒(建築家、architecture WORKSHOP主宰/横浜国立大学大学院Y-GSA教授)
 - 5、2010年12月4日(土) 15:00～18:30 ラウンドテーブル
[出演] 木幡和枝(東京藝術大学美術学部先端芸術表現科教授)、クリスティン・トメ(アシュカル・アルワン・レバノン現代芸術協会代表)ギョンウォン・ムン、マルワ・アルサニオス、ネスリン・ホル
*この他にも、会期中にはシンガポールの劇団シアター・ワークス芸術監督のオン・ケン・センによるゲストトークなどを予定しています。日時ならびにイベントに関する詳細はウェブサイトをご覧ください。
- レセプション 2010年10月28日(木) 19:00～19:30
*来日中のアーティストとのインタビューなど、取材を承ります。広報担当へご連絡ください。
- 主催 公益財団法人東京都歴史文化財団 トーキョーワンダーサイト
- パートナー機関 アシュカル・アルワン・レバノン現代芸術協会(レバノン)、サン・アート(ベトナム)
- 協力 100 Tonson Gallery(タイ)、Gallery Hyundai(韓国)
- 関連企画 トーキョーワンダーサイト青山: クリエーター・イン・レジデンス「OPEN STUDIO」ゲストトーク
2010年10月23日(土) 15:00～16:30「アートと公共性」
[ゲスト] 毛利嘉孝(社会学者、東京藝術大学音楽学部音楽環境創造科准教授)
2010年11月28日(日) 15:00～16:30
[ゲスト] 「人間を撮る」池谷薫(映画監督)

**会場案内**

トーキョーワンダーサイト渋谷

〒150-0041 東京都渋谷区神南1-19-8

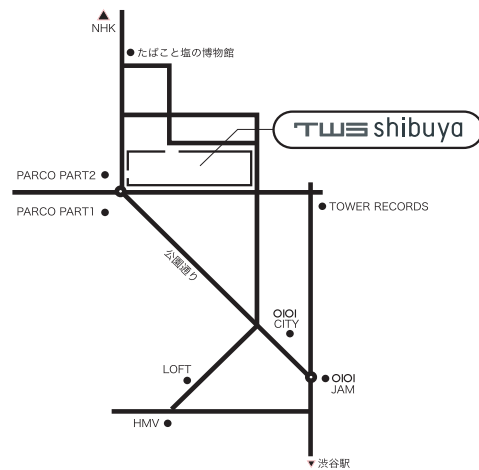
TEL: 03-3463-0603

FAX: 03-3463-0605

■交通案内：渋谷駅 (JR山手・埼京線・湘南新宿ライン/東急東横・田園都市線/

京王井の頭線/東京メトロ銀座・半蔵門・副都心線)より徒歩8分

駐車場はございませんので、お車のご来館はご遠慮下さい。

*** 関連イベント (「OPEN STUDIO」時のみ公開)**

トーキョーワンダーサイト青山：クリエイター・イン・レジデンス

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-67コスモス青山 SOUTH 棟3F

TEL: 03-5766-3732

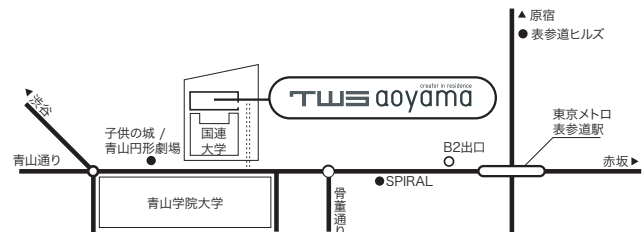
FAX: 03-5766-3742

■交通案内：表参道駅B2出口 (東京メトロ銀座線・半蔵門線・千代田線)より徒歩7分

渋谷駅東口 (JR山手線・埼京線・湘南新宿ライン/東急東横・田園都市線/京王井の頭線/

東京メトロ銀座・半蔵門・副都心線)より徒歩8分

お車でご来館の場合は、近隣の有料駐車場 (同ビル地下3F)をご利用ください。



参加アーティスト紹介

アラーヤ・ラートチャムレンスック | Araya Rasdjamreansook

1957年タイ生まれ。立体作品、インスタレーション、パフォーマンス映像、写真など、死や嘆きのイメージに女性の性やアイデンティティを映す作品を多く発表している。ヴェニスビエンナーレ・タイ館（2005）、シドニービエンナーレ（2010）他、国際的に活動している。



〈Manet's Dejeuner sur l'herbe 1862-1863 and the Thai villagers〉, 2008
Video Installation, 16 mins
Courtesy of 100 Tonson Gallery and the artist

ギョンウォン・ムン | Kyungwon Moon

1969年ソウル（韓国）生まれ。大学で絵画を学んだ後、作品の文脈上の要素を伝えるため様々なメディアを使い作品を制作している。主に、歴史的、社会的事実と独自の心理的観点とともに理想と現実、個人と社会の関係について言及している。



〈GreenHouse_#03〉, 2009, Oil on Canvas, 140×140cm
Courtesy of the artist

マルワ・アルサニオス | Marwa Arsanios

1978年バイルート（レバノン）生まれ。都市についての歴史的、理論的なりサーチをもとに、特定の場所や建築物からものを集め、ドローイングやアニメーション、脚本など多様な方法でそれらを作品化している。



〈I've heard 3 stories〉, 2009, Video and hand drawn animation, 12min43sec
Courtesy of the artist

ネスリン・ホドル | Nesrine Khodr

1973年バイルート（レバノン）生まれ。アイデンティティ、空間の占領、移動、レバノンの政治的な歴史などを題材にしたビデオエッセイを多く制作している。



〈Enclosures〉, 2004, Colour, Sound, 22min
Courtesy of the artist

トークゲスト紹介

羽藤英二 | Eiji Hato

東京大学工学系研究科都市工学専攻准教授。専門は交通工学、ネットワーク行動学。MIT 客員研究員、UC サンタバーバラ客員教授を経て現職。愛媛大学客員准教授、ネパール工科大学客員教授を兼任。世界交通学会賞などを受賞。代表的な取り組みにプローブパーソン技術の実装や四国風景づくりの会がある。磯崎新、内藤廣らとマカオ・珠海の都市コンペに参加、未来都市東京2050として都市戦略を提示するなど、建築、都市分野における多彩な実践活動も行う、注目の若手研究者。

ディン・Q・リー | Dinh Q Le

1968年、ベトナム、ハーティエン生まれ。ホーチミン在住。1992年、ニューヨークのスクールオブビジュアルアートで修士号を取得。主な個展に、ベルビュー・アーツ・ミュージアム（ワシントン）で行われた「A Tapestry of Memories」や、アジア・ソサエティ（ニューヨーク）での「Destination for the New Millennium」。2010年には、ニューヨーク現代美術館でのプロジェクトを行った。アーティストとして活動の傍ら、ロサンゼルスでベトナム人アーティストの支援および、国境を越えたアーティストの文化交流を促進する財団、ベトナム・アート・ファンデーションを設立し、ホーチミンに非営利ギャラリーのサン・アートを設立した。

ダニー・ユン | Danny Yung

上海生まれ。5歳のときに香港に移住。1982年にアート集団ズニ・アイコサヒドロンを設立、1985年よりアーティストティック・ディレクターを務める。2000年には11週間に渡り開催されたベルリンー香港文化交流フェスティバルと国際会議、「フェスティバルズ・オブ・ビジョン」をオーガナイズした。HKICCスクールオブクリエイティビティ（香港）創業者。最近では香港政府の政策アドバイザーとして、創造的産業、西九龍文化地区開発、文化ハブの計画などの文化政策に関わっている。

**北山恒 | Ko Kitayama**

1950年生まれ。横浜国立大学大学院修士課程修了。1978年ワークショップ設立(共同主宰)を経て、1995年横浜国立大学助教授、architecture WORKSHOP設立主宰。現在、横浜国立大学大学院Y-GSA教授。横浜市都心臨海部・インナーハーバー整備構想や、横浜駅周辺地区大改造計画に参画。2010年、第12回ヴェネチア・ビエンナーレ建築展コミッションナー。受賞歴に、日本建築学会賞「洗足の連結住棟」(2010年)、日本建築学会作品選奨「白石第二小学校」(共同設計 1997年)、「公立刈田総合病院」(共同設計 2004年)、日本建築家協会賞「公立刈田総合病」(2006年)、「洗足の連結住棟」(2010年)、日本建築学会教育賞(教育貢献)(2010年)など。主な著書に「ON THE SITUATION」(TOTO出版)、「建築をつくることは未来をつくることである」(TOTO出版)など。

木幡和枝 | Kazue Kobata

東京在住。出版社勤務後フリーのアート・プロデューサー、編集者、翻訳者として活躍。アムステルダムのDe Appel、NYのP.S.1 現代美術センター及びArt Radio (NY)で、客員キュレーター、プロデューサーを務め、2001年に「日本のサブカルチャー」を共同企画、2004年「韓国、沖縄写真家による基地とその周辺のドキュメンタリー写真」、2007年「1980-2005 岡田正人写真展:田中泯 海山のおひだ」などの展覧会をキュレーションした。1982年東京中野にアーティスト共同運営スペース「plan B」設立、1988年より「白州・夏・フェスティバル」(現在は「ダンス白州」と改称)事務局長・実行委員。現代美術・音楽分野のほか、スーザン・ソントグ、ローリー・アンダーソン、生命科学者ライアル・ワトソンなどの翻訳書多数。

クリスティン・トーム | Christine Tohme

1964年ベイルート生まれ。レバノン、オランダ、イギリスで、絵画・彫刻、アートマネジメント、現代美術理論を学ぶ。1994年、レバノンおよび中東地域の現代アートを世界へ発信することを目指し、アシュカル・アルワン・レバノン現代芸術協会を設立。ジャンルを越えた多彩な活動を行なっている。2002年からはレバノンの現代アーティストやプレゼンターの交流の場として様々な企画を行なう「Home Works: A Forum on Cultural Practices」を開催。中東地域のアートを知る機会を広く提供している。

オン・ケン・セン | Ong Keng Sen

1963年シンガポール生。1989年シンガポール国立大学法学部卒業。大学在学中の1988年、劇団〈シアターワークス〉を設立し演出家としての活動を開始。1993年から1994年、アメリカ合衆国ニューヨーク大学大学院に留学して修士号(パフォーマンス研究)を取得。2003年にはシンガポールの文化勲章(演劇部門)を授与されている。主な作品に、1996年からの継続的作品「フライング・サーカス・プロジェクト」、「サンダカン葬送歌」(2004)、シェイクスピア劇の翻案作品があり、世界各地での演劇イベントでの芸術監督も多数務める。